

## 委員会活動報告書

委員長名 村嶋 幸代

<b>【委員会名】</b> 教育評価準備委員会(特別プロジェクト)	
<b>【メンバー】</b> ◎村嶋 幸代(大分県立看護科学大学)、○斉藤 恵美子(東京都立大学)、 荒木田 美香子(川崎市立看護短期大学)、大河内 彩子(熊本大学) 神崎 由紀(山梨大学)、¥矢島 正榮(群馬パース大学)、中山直子(神奈川県立保健福祉大学) オブザーバー 臺 有桂(神奈川県立保健福祉大学)  50音順、◎委員長、○副委員長、¥会計担当、*会員校以外の委員、( )所属名	
<b>【活動方針】</b> 1. 保健師教育の評価について検討する。特に、「評価」で何を指すのかを明確にする。 2. 看護師教育・助産師教育を含む他の評価機関の機能を調べる。 3. 保健師教育の分野別認証評価を推進するか否かについて、会員校に合意を得る道筋をつける。	
<b>2022(令和4)年度</b>	
<b>達成目標</b>	1. 全保教が行う保健師教育の評価の意義を明確にする。 2. 全保教が行う評価の実施に向けて、評価の実施方法や項目などを明確にする。 3. 会員校の意向を調査する。 4. 調査結果を踏まえて、理事会として意思決定するための準備を行う。
<b>活動報告</b>	1. 委員会をオンラインにて7回実施した。 2. 「保健師教育の評価」について、会員校の意向を把握し、今後の検討のために活用することを目的として、調査を実施した。 1) 対象: 一般社団法人全国保健師教育機関協議会会員校224校の教員 2) 方法: Google form を用いた無記名自記式質問紙調査 3) 調査内容: 下記の10項目とした。 (1)保健師教育評価の必要性、評価方法に関する考え、受審する場合の頻度、費用、方法 (2)保健師教育の評価で必要な項目、(3)評価結果の活用等についての考え (4)受審の可能性について、頻度・受審費用・審査方法の3水準の組み合わせ 4) 調査期間: 2022年10月11日～2022年11月8日 5) 回収数(率)は106校(45.7%)であった。 6) 結果および結論 <b>【今後の教育評価の方向性について】</b> ・上乗せ教育をしている教育機関は8～9割と第三者評価へのニーズが高く、上乗せの教育機関からの対応を検討する必要性がある。 ・全保教として、何らかの対応をしていく必要があるろう。 ・教育体制委員会の「保健師養育課程の質を保証する評価基準」も併せて検討が必要である。 ・今後2年間で試行評価を行い、評価項目、評価員の研修等について、必要時間や費用等を具体的に試算することが望ましい。 ・全保教で教育評価を推進するためには、理事会の意思決定とロードマップの作成が必要である。